

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

施設名	小学館アカデミーむさしこやま保育園
所在地	品川区小山 3-27-5 武蔵小山創業支援センター2 階・3 階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

1 歳児では動物の鳴き声や乗り物の音を伝えると、喃語や指差して嬉しそうに反応したり、2 歳児では大好きなブロック遊びの時に擬音語を多く発していたりなど、日常で聞いた音を自分の感音（言葉）として表現しようとしている。遊びや生活の中で触れる身近な音に注目して、子どもたちの表現を更に豊かにすることを目的とした。

2. 活動スケジュール

●日々の遊びの中の音を感じていくため、年間を通して継続的に行っている

- ① 身近な音を聞き、表現する遊び ② リズム遊び
③ 楽器あそび ④ 自然の中の音探し

・講師による保育実践、アドバイス（年間を通して：5 月～3 月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

記録用スマートフォン

① から④の遊びに必要な玩具や教材：絵カード・楽器・フルーツシェイカー・画用紙など
講師による保育実践で活用した教材：図鑑・絵カード・DVD・タッチペン・ワークなど

◆子ども一人ひとりの気づきを大切にするため、また無理のない活動にできるように 3～4 人の少人数グループに分かれて行う。

◆身の回りの音を集中して聞くことができるように講師の知見を元に環境設定をする

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

少人数のグループに分かれ、絵カードを見せ、動物の声・乗り物の音・日常生活の音を擬音語で伝える。絵カードの物を実際見つけ一致が出来るように援助。また、その際に音に気づけるようにした。2 歳児は音を聴き何かをイメージできるような声がけをする。

楽器遊びを通し自分で音を出すことに興味を持てるようにし楽器作りを行う。音を出す素材の中身は自由に選べることで音に違いがないか発見できるようにする。

戸外活動でも自然の中で音探しを行い、音を探求した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



① 身近な音を聞き、表現する遊び

「犬」「わんわんっていうの」絵カードを見ながら名前や鳴き声を話す。保育者は興味をもった絵カードの音を実物の音で聞くことができるように、実物を見られる環境を設定した。戸外で実際に泣き声を聞くと「わんわん」だね。と気づいていた。音から連想し、簡単な言葉の模倣も見られるようになってきた。

② リズム遊び

ピアノなどの音を聴いて、表現遊びにつながるような活動を行った。始めは保育者の真似をしていたが、くり返し行っていくと思い思いにイメージを膨らませて動物を表現していた。好きな動物をイメージして動く姿もあった。保育者は自由な表現ができるように教え込まないようにし、楽しく活動ができるように関わった。



③ 楽器遊び

フルーツシェイカーで音を出すと、「あむあむ」と食べる真似をしたり、シャカシャカと擬音語で音を表現したり、じーっと見ている子もいた。保育者は見ている子には他の子が楽しんでいる様子を伝え無理なく興味を持てるように見守った。次第に音に興味が出てきて腕を振り鳴らし、友だちの音にも耳を傾ける姿もあった。楽器に興味広がっていたので、保育者は楽器を自分で作る活動を取り入れ、自分で作った楽器が嬉しく、鳴らしながら「ガサガサ」と表現。中に入っている物での音の違いも「おおいね」と聞き比べていた。

④ 自然の中の音探し

室内の活動の中から音遊びを楽しんで色々な音に興味を持ってきたので、自然からの音を感じられるように、戸外に音探しに行った。カサカサ、アイロンの音がするなど子どもたちは、実体験から学んだ音を擬音語や比喻で表現し、耳からだけではなく、体中を使って感じていた。



5. 振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

年間を通して継続的に行っている活動のため振り返りは職員会議などの中で都度行っています。

(活動を進めていく中で 講師からのアドバイスによる振り返りによって得た気づき)

●活動に集中できない子が多くいたため、集中できるように、部屋にたくさん掲示しているものをシンプルにする。継続してあそびが楽しめるように玩具を配置する。

→集中して遊ぶことが出来るようになった

●言葉がけを意識しすぎてしまって言葉がけが少ない。くり返し伝えていくこと、共感していくことが人の声（音）にさらに興味を持つことにも繋がっていく。

→言葉がけが多すぎることが園の課題にあがっていたので、言葉がけを少なくすることを意識しすぎていたが、子ども一人ひとりの必要や状況を良く見て言葉をくり返し伝えることや待つことが大切だと気づいた。また音を介した行動を通して人や物との関わりを深めていけると感じた。

●興味付けには、電子音の活用も有効

→自然な音を大切に考え、電子的な音を使った保育をやめていくように努めていたが、実物の音を聞く時にCDなどの電子的な音を使用すると集中して聞いていて興味付けの方法としての使用には良かった。

●玩具（教材）選びは、子どもの日々の様子や関心を踏まえ、興味を持つようなものを選ぶ。興味付けが大切。遊びが展開、継続していくようにいつもと違う玩具を取り入れたりし、工夫していく。

→いつもと違った玩具を用意したり自分で作ったもので遊んでみたり、継続して遊べるようにしていく大切さを改めて認識した。あそびが継続するとあそびの中から子どもたちが興味を深め、色々な気づきがうまれていた。

全体的な振り返り

・はじめは様子を見たりして、参加できなかった子どもたちも繰り返し行うことで楽しんで参加するようになった。

・普段の保育の時間でも擬音語を発することが多くなった。

・音は音楽活動をしている時に存在するだけではなく、身体を動かしたり人の声を聞いたりする中でも聞ける。様々な音をイメージしたり、実際に音を出したりして子どもたちは自分なりに表現し楽しんでいる姿が見られた。

・音活動が想像力や表現を豊かにしていくので、いつも側にいて接している保育者の言葉かけや共感、聴くことを意識していくことが大切だと気付いた。



保護者へ報告



職員振り返り